

LIBRARY



火曜日は世中の卒業生 12 人が、体育館で 2 年生にお話をしてくれました。私は、「常にそれは何故なのか？と考えさせる世中の学びは、その後の人生に役立っている」という言葉が心に残りました。

『わたしたちに翼はいらない』 寺地はるな著 新潮社



地方都市に暮らす 3 人が主人公。マンション管理会社に勤務する独身の園田は、中学時代に自分をいじめていた同級生を今も許せない。復讐するためにの妻莉子に近づく。一方、莉子もまた一人娘を育てながら、夫のモラハラや姑の支配に鬱屈した思いを抱えている。

莉子の娘と同じ保育園に娘を預ける朱音は、最近夫と別れ、シングルマザーとしての一歩を踏み出したばかり。学校という狭い世界で受けた傷を長くひきずったり、あるいはスクールカーストのトップにいたために人として成長できていなかったり…。そんな彼らも不思議な関わり合いのなかで少しずつ変わっていく物語です。

『つぎはぐさんかく』 菰野江名著 ポプラ社 2023



美味しい総菜屋を営む三兄弟。店の名前は△(さんかく)。晴太と蒼との暮らしがずっと続くと思っていたヒロにとって、突然高校にはいかないと言い出した蒼の言葉はショックだった。この三兄弟、実は訳ありだったのです。美味しいお惣菜、挽きたてのコーヒーの

香りがただよう一方、シビアな話が展開されていくこの物語。書いたのは小説に初挑戦で、現在の職業は裁判所の書記官という菰野さん。物語のヒントは、『ワンピース』にももらった。長く同じ釜の飯を食べば人は家族だという！(同感)。ポプラ社小説新人賞受賞作です。

『モノクロの街の夜明けに』 ルータ・セペティス著 岩波



1989 年のルーマニアが物語の舞台です。チャウシエスクによる独裁が続くこの街で、高校生のクリスティアンは、秘密警察セクリターテの諜報員から密告者になることを強要される。断る自由などありません。見返りに重い病の祖父の薬を要求するのがせいぜい。ルーマニアの周辺国は次々と民主化の流れが、それを伝える海外ラジオに耳をすませるが、自分を信頼する人の前で、密告者であることを隠すことは辛い。クリスティアンは大胆な作戦をひそかに実行しようとするが…。

『本心』 平野啓一郎著 文春文庫 2023



三島の再来とも言われ、若き平野啓一郎さんが、京大生の時に『日蝕』で芥川賞を受賞したのは 1999 年のこと。今から 24 年前ですね。時を経て、平野さんの本は、ずっと読みやすくなりました。『マチネの終わりに』は福山雅治主演で映画化もされています。とあるインタ

ビューで文学は読まれてこそ…的な話をしていました。こちらは文庫になったの再登場ですが、2040 年年代の日本が舞台。最愛の母が死に、母をメタバース上で蘇らせてもらった主人公は、AI の母との対話を重ねることで、母の真意を知ろうとするのですが…。著者によれば、この本のテーマは「最愛の人の他者性」だそうです。読みやすくなって深いことには変わりない。

『夜明けを待つ』 佐々涼子著 集英社インターナショナル 2023



『エンジェルフライト』『紙つなげ!』『エンド・オブ・ライフ』『ボーダー』……。数々の良質のノンフィクションを送り出してきた著者が、この 10 年書き溜めてきたエッセイとルポルタージュから選りすぐりを 1 冊の本にまとめたものです。

これまで様々な人の、生と死に関わり、時に寄り添ってきた著者は、希少ガンという、今重い病を抱える身です。この本の最後には、人より短い生を終えることを覚悟した佐々さんの言葉が書かれています。

『数学ガールの秘密ノート』 結城浩著 SBクリエイティブ



著者の結城さんは、『数学ガール』と『数学ガールの秘密のノート』という 2 つの人気シリーズを書いています。この本は後者のシリーズで、“学ぶための対話”という副題がついています。いとこのユウリに連れられてやってきたノナちゃんに、数学を教えることになった高校生の「僕」。数学を教えるのは得意だとおもっていたのですが、数学が苦手な嫌いだと思っているノナちゃんが相手となると…。1 月に松本先生が、この本のブックトークをしてくれるそうです!

『人類の星の時間』 シュテファン・ツヴァイク著 みすず書房



ツヴァイクは、『マリーアントワネット』などの伝記作家として評価の高い人物です。ユダヤ人であったため、ヒトラーが政権を握る頃、故郷オーストリアから英国→米国→ブラジルと移住し、最後はヨーロッパの未来に悲観して自ら命を絶ったと言われています。この本は、ゲーテ、ナポレオン、ドストエフスキー等の天才が輝きを放った運命的な一瞬を凝縮して描き、晩年の傑作と言われた 1 冊。

『だれが歴史を書いているの?』 バッカラリオ著 太郎次郎社印行



この本は、「歴史的な考え方」について書かれた本です。本来は大学で学ぶような内容を、中学生にわかる言葉にした初めての本と謳い文句が。歴史とはどうやってつくられるのか、歴史と権力の関係って? そもそも歴史を学ぶ意味は? 歴史を未来に残す方法は…。勝者が歴史をつくとよく言われるのは、敗者は自由に話す権利が奪われてしまうから。読むと歴史を見る目が変わるかも! いざ! 探Qシリーズの 1 冊で、著者はイタリアの児童文学作家です。

『BOOK MARK 2』 金原瑞人・三辺律子編 CCC 文芸文庫



翻訳者による海外文学ブックガイドの第二弾です。日本で翻訳される海外文学は、多くが本国で評価の高かったものなので、ハズレが少ないとも言えます。ただし、好きな本のジャンルや文体とかは人それぞれなので、あなたがもし、この海外小説好きかも…と思ったら、翻訳者の名前を確認して、その人が翻訳しているほかの本も読んでみるのもおすすめです。

翻訳者って、とっても地道な作業を普段しているわけですが、それだけに、言葉への感度はものすごくいいし、場合によっては著者以上にその本を理解していたりします。編者の金原瑞人さん、三辺律子さんは、YA 作品の翻訳をととてもたくさん手掛けていますよ。

12月にはいった本の一部です。リクエストは常時受け付けています。

登録番号	NDC	書名	著者名1	出版者	出版年
039471	141F	内気なキミを最強にする説明書	ファイナー 著	誠文堂新光社	2023/10
039475	289Y	湯川秀樹の戦争と平和	小沼通二	岩波書店	2020/08
039474	404I	科学者と戦争	池内了	岩波書店	2016/06
039473	410Y	数学ガールの秘密ノート	結城浩 著	SBクリエイティブ	2019/12
039476	559A	戦争と科学者	安斎育郎 著	かもがわ出版	2022/04
039477	764K	言語学的ラップの世界	川原繁人,	東京書籍	2023/11
039458	910S	出世と恋愛	斎藤美奈子	講談社	2023/06
039406	913Na	伝言	中脇初枝 著	講談社	2023/08
039463	913Ha	砂漠の旅ガラス	長谷川まりる	小学館	2023/10
039461	913Ha	杉森くんを殺すには	長谷川まりる	くもん出版	2023/09
039464	913Ha	満天 in サマラファーム	長谷川まりる	講談社	2022/09
039457	913Hi	ある男	平野啓一郎	文藝春秋	2021/09
039472	913Hi1	ガリレオの事件簿	東野圭吾 著	文藝春秋	2022/08
039404	913Ka	腹を空かせた勇者ども =	金原ひとみ	河出書房新社	2023/06
039468	913Te	アンドロメダの涙	天川栄人	講談社	2023/09
039467	913Te	虹色のパズル	天川栄人	文研出版	2023/06
039469	913Te	おにのまつり	天川栄人	講談社	2022/07
039462	913Te	ノベルダムと本の虫	天川栄人	KADOKAWA	2016/02
039481	913To	ココロ/ナカ/ノ/ノ	戸森しるこ	光村図書出版	2023/09



76 回生美術 ことばのけもの



「けもの」づくりの第一歩は、針金で骨格をつくること。そこで作りたい動物に似ている骨格を調べている様子です。司書の私も2Aの授業に混ざって、とある言葉のけものを制作中です。

76 回生社会 生徒授業「中部地方の魅力を伝えよう！」



昨年の「ヨーロッパはひとつになれるのか」をテーマに生徒授業がありましたが、今年は魅力度ランキングでは上位にならない中部地方の魅力を伝えるのがミッション。この日は図書館で紙の資料、デジタルの資料を調べて、指導案づくりの準備

ブックカフェ 映画鑑賞会

毎年、「緑友」にその年見て良かった映画について書いている篠塚先生で



すが、数年前に紹介していたのがこの映画。ぜひ世中生にも見てほしいと当時購入。今回、予定してい

た日は急に、2年生は委員会行事が入ってしまい、実際に見に来れたのは片手ぐらいの人数だったのですが、2日に分けて最後までみました！タイトルは『ライフイズビューティフル』

図書委員会新企画 ブックカフェ報告

校長先生の教育学トーク 第2回



「日本の高校以降の教育を世界と比べると」 (今回も村上がざっくりとまとめました。)

まずは、中学までの日本の教育は、世界一と言えるかもしれない…という前回のおさらいから始まりました。日本の高校は、「単線型」と言われ、高専と専修学校を除き、卒業すれば大学進学資格を得ることができます。しかし、日本では、偏差値という日本にしかない物差しによってすべての大学は細かくランク付けされていて、受験はたいていランキングのちょっと上を狙う。そのため、入学時にはほぼ「全員が敗者」として学業をスタートするという日本特有のシステムが出来上がっている。(日本以外で明確に学力別の学校があるのは、中国・台湾・シンガポールのみ)

そして、入学後学生が堂々と4年間遊んで過ごすのは日本だけ。大学には所属するクラスがないので、アルバイトとサークル活動を謳歌する。学生を採用する側の企業は大学で何を学んだかは問わないし、大学の教員は学ぼうとしない学生にまともな講義をしないという悪循環に陥っているが、まず変わるべきは大学の教員ではないかというのが、校長先生の意見でした。(レジャーランドにしては、高価すぎ。このままで学費を無償にすれば、国民の税金で、大学生を遊ばせているってことになりそうですね。無償化するなら、しっかり学んでもらわないと、意味ないなあと思いました。)

世界では、高学歴化が進んでいるのに、日本は横ばい、もしくは減少をたどっているという大学院生の数。これも、海外では高度で専門的な知識を学ぶということは、自律的に情報を分析し、判断し新しい価値を生み出せる人と考えられているので、よりよい就職先があり、高い給与がもらえる。ところが、日本では狭い範囲のことにしか興味のない人と見られ、組織ではつぶしがきかない使えない人と思われる節がある。

現在、日本の大学は約800あり、そのうち300は定員割れで、経営が苦しい。今後少子化が加速すると倒産する恐れもある。こんな日本の現状を話されたあとに、校長先生は、中学生の皆さんは、大学に行って何をしたいですか？と問いかけていました。まず変わるべきは何でしょうか？(「学ぶこと」の意味を正しく理解していれば、世中生の未来は決して暗くないと思うのですが。)